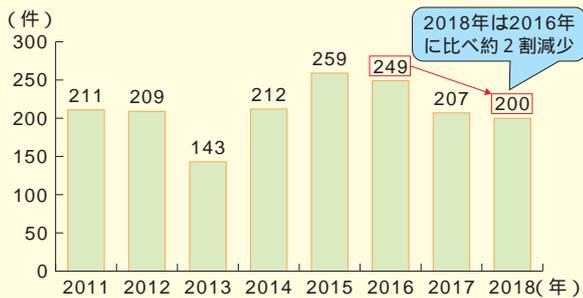


高速道路での逆走対策について

国土交通省では、重大事故に繋がる可能性の高い高速道路の逆走対策を推進している。

高速道路での逆走は2日に1回以上の割合で発生。逆走は、死傷に至る割合が事故全体に比べ約5倍、死亡事故となる割合が約40倍。

【逆走発生件数の推移】



【事故全体と逆走事故（高速道路）】

	死傷の割合	うち	(参考)
		死亡の割合	
事故全体	10%	0.3%	90%
逆走事故	46%	13%	54%

高速道路会社が管理する高速道路の状況（高速道路会社調べ）
 事故全体：38万件の内訳（2011年～2017年計）
 逆走事故：301件の内訳（2011年～2017年計）

逆走事故削減のため、これまで高速道路会社とともにICやJCT部等でラバーポールや大型矢印路面標示の設置といった物理的・視覚的対策を実施。

【物理的・視覚的対策の例】



対策のより一層の推進を図るため、高速道路会社が民間企業から公募・選定した新たな逆走対策技術について平成30年度より現地展開を開始。

【公募・選定した新技術のテーマ】

テーマⅠ

○道路側での逆走車両への注意喚起
 ・センサーとLED表示板・音・光等を用いた注意喚起 等

○道路上の物理的・視覚的対策

テーマⅡ

○道路側で逆走を発見し、その情報を収集する技術
 ・路側カメラ、3Dレーザーセンサー等の路側機器・路側センサーの活用
 ・道路管理センターとの連携 等

テーマⅢ

○車載機器による逆走車両への注意喚起
 ・カーナビにより、ドライバーに対し警告 等

○自動車側で逆走を発見し、その情報を収集する技術

今後は、行き先を間違えた車に対する特別転回の制度等による安全・適切な誘導や、民間企業から公募・選定した新技術を積極的に展開。

